年表

年代		北海道内のできごと	札幌市内のできごと	屯田兵に関わるできごと	北海道外のできごと
明治元年	1868				●戊辰戦争が勃発する（翌年終結）。
明治2年	1869	●開拓使が設置される。鍋島直正が初代開拓使長官、島義勇が開拓主席判官に任命される。 ●蝦夷地を北海道と改称。	●島判官が、札幌本府の建設に着手。		
明治3年	1870	●黒田清隆が、開拓使次官に就任する。			
明治4年	1871	●黒田清隆が、外国人雇い入れのためアメリカへ出発。 ●アメリカ人農政家であるケプロンが、開拓使顧問として来日。外国人雇い入れがはじまる。	●札幌開拓使庁が設置される（北4東1）。		●廃藩置県が行われる。 ●郵便制度が発足。
明治5年	1872	●クラークらを雇い入れ。 ●東京に開拓使仮学校を開設。	●開拓使庁を開拓使札幌本庁と改称。		●学制が公布される。 ●鉄道の営業が開始（新橋～横浜間）。
明治6年	1873	●エドウィン・ダンを雇い入れ。開拓使の「農業職」として来日する。	●開拓使札幌本庁舎が落成する。	●開拓次官黒田清隆の建白によって、屯田兵の設置が決定。	
明治7年	1874	●黒田清隆が、開拓使長官に昇任する。	●札幌神社の祭日を6月15日と定める。	●黒田清隆が、陸軍中将兼開拓次官および北海道屯田憲兵事務総理に任命される。 ●「屯田憲兵例則」を制定。 ●札幌郡琴似村に屯田兵屋208戸竣工。	
明治8年	1875		●開拓使仮学校が札幌へ移転し、札幌学校と改称。 ●ホルト設計の豊平橋起工。	●開拓使に屯田事務局を設置する。 ●琴似兵村に198戸・965人入地。 ●琴似村に屯田兵子弟教育のため小学校を設置。 ●札幌郡山鼻村に240戸、札幌郡発寒村に32戸屯田兵屋竣工。	●樺太・千島交換条約調印。
明治9年	1876	●クラークが来日する。	●麦酒醸造所建設に着手。 ●札幌学校の開校式が行われる（翌9月、札幌農学校と改称）。	●発寒村に32戸入地（琴似兵村に編入）。山鼻兵村に240戸・1114人入地。	
明治10年	1877			●西南戦争勃発による警備のため函館に屯田兵一小隊が分遣される。 ●西南戦争に屯田兵一大隊が従軍。 ●琴似山鼻両村に屯田兵子弟教育のため小学校を設置。 ●西南戦争従軍の屯田兵が札幌に凱旋する。	●西南戦争が勃発する（同年終結）。
明治11年	1878	●第一回農業仮博覧会が開催される。	●札幌農学校演武場（時計台）の開場式が行われる。 ●真駒内牧牛場でバター・チーズ等の製造を試みる。		
明治12年	1879		●開拓使札幌本庁舎が焼失する。 ●札幌全郡を区とする。 ●札幌区役所が落成する。		●琉球藩を廃し、沖縄県を置く。 ●全国的にコレラが流行する。
明治13年	1880	●手宮～札幌間に鉄道が開通する。 ●バッタが十勝に発生、石狩などに飛来し、大きな被害が出る。	●清華亭が落成する。 ●豊平館が落成する。		
明治14年	1881	●明治天皇が、道内各地を行幸される。 ●開拓使官有物払下事件が起こる。	●札幌市街の名称を条丁目に改める。 ●魚市場が南1西1あたりに設けられる。	●山鼻兵村屯田兵が、札幌の警察所・派出所を襲撃。	
明治15年	1882	●黒田清隆が長官を免ぜられ、後任に西郷従通が就任。 ●開拓使が廃止となり、函館・札幌・根室の3県が設置される。	●豊平川の洪水によって、堤防が決壊する。	●開拓使の廃止によって、屯田兵を陸軍省の管轄とする。	
明治16年	1883				
明治17年	1884				
明治18年	1885			●「屯田兵条例」を定める。屯田事務局を屯田兵本部と改称し、永山武四郎を陸軍少将に任じ本部長とする。	●内閣制度が創始される（初代内閣総理大臣は伊藤博文）。
明治19年	1886	●三県制を廃止し、北海道庁を置く。 ●コレラ、天然痘が大流行する。 ●岩村通俊が初代北海道庁長官として着任。		●屯田兵本部の経費を北海道庁の所管とする。 ●札幌郡新琴似村に、屯田兵屋146戸が竣工。	
明治20年	1887	●「北海新聞」（北海道新聞のルーツ紙の1つ）が創刊。		●新琴似兵村に140戸入地。	
明治21年	1888	●北海道庁庁舎（赤レンガ）が落成する。			
明治22年	1889		●暴風雨のため、豊平川が氾濫し堤防が決壊。 ●札幌市街で下水道を開削。	●札幌郡篠路兵村に220戸入地。 ●「屯田兵条例」を改正し、屯田兵本部を指令部と改める。	●大日本帝国憲法が発布。
明治23年	1890			●屯田兵の経費を陸軍省の所管とする「屯田兵移住給与規則」を公布。 ●「屯田兵条例」を改正し、服役期間は現役3年・予備役4年・後備役13年計20年とし、後備役満期後10年間補充兵役に服させることとする。 ●「屯田兵司令部条例」を改正し、司令官は天皇直属とする。 ●「屯田兵召募規則」を定める（士族を主とした募集を平民に広げる）。	
明治24年	1891		●札幌に電燈がつく。		
明治25年	1892	●天然痘が大流行する。	●札幌大火で区役所、警察署など市街の五分の一が消失する。		
明治26年	1893				
明治27年	1894		●新渡戸稲造が札幌遠友夜学校を創立する。	●「屯田兵条例」を改正し、予備役を廃し現役を8年間に延長。	●日清戦争が勃発する。
明治28年	1895			●屯田兵により臨時第七師団を編成（司令官に永山武四郎中将）し、第一軍に編入し東京にて待命。 ●日清戦争終了により臨時第七師団復員（6月：師団解散）。	●日清講和条約調印（下関条約）。
明治29年	1896			●渡島・後志・胆振・石狩に徴兵令を施行。 ●第七師団を設置し、陸軍中将永山武四郎を師団長に任命。屯田兵司令部を廃止し、第七師団直属となる。	
明治30年	1897			●徴兵令を千島にいたる全道に及ぼす。	
明治31年	1898	●暴風雨による洪水で各地に被害が続出。		●天塩・北見・日高・十勝・釧路・根室・千島で徴兵令が施行され、北海道全域に徴兵令が施行されることとなる。	
明治32年	1899	●札幌、函館、小樽に区制をしく。			
明治33年	1900	●札幌～小樽間電話通信を開始。 ●北海道拓殖銀行が創設される。	●札幌郡豊平村で大火。		
明治34年	1901	●第一期道会議員の選挙が行われる。 ●全道的に洪水が発生し、札幌支庁管内で2251町歩の田畑に被害が出る。		●第七師団司令部を上川郡近文に移転。	
明治35年	1902		●豊平・月寒・平岸三村を合併して豊平村とする。		
明治36年	1903		●札幌農学校が、現在の北大の地に新築移転。	●北清駐屯軍として、三個中隊を派遣。	
明治37年	1904			●日露戦争が起こり、一個大隊を函館要塞守備隊に、二個中隊を小樽守備に、一個中隊を室蘭守備に派遣する。 ●士別・剣淵二兵村の現役兵が、後備役に編入され、屯田兵の現役兵が皆無となる。 ●第七師団に動員下令、後備屯田兵も充員召集される。 ●「屯田兵条例」廃止（屯田兵制度終了）。	●日露戦争が勃発。
明治38年	1905				●日露講和条約調印（ポーツマス条約）。
明治39年	1906		●山鼻・円山両村が合併して、藻岩村と改称。 ●中島公園で北海道物産共進会が開催される。		●樺太の北緯50度以南をロシアから受領。
明治40年	1907		●札幌区で大火。 ●札幌競馬場が北5西16に移り、秋季競馬から使用される。		
明治41年	1908		●豊平村に町制がしかれる。 ●札幌支庁庁舎新築落成。		
明治42年	1909	●北海道庁で火災がおきる。	●豊平川が大洪水。		
明治43年	1910	●石狩川治水工事に着手。	●札幌区に豊平町・白石村・札幌村・藻岩村の一部を編入。 ●豊平川が氾濫し、豊平橋が流失する。 ●中島遊園地を中島公園と改称。 ●山鼻墓地が開設。		
明治44年	1911		●北7東1から茨戸まで馬車鉄道が開通する。 ●北海道教育会が時計台を借り付属図書館を開設（市立図書館の始まり）。 ●大通に逍遥地（現在の大通公園）を設営。		
明治45年	1912		●豊平川で洪水がおこり、堤防が決壊する。		●明治天皇が崩御、年号を大正と改元。

【参考】

■北海道内のできごと
『お雇い外国人　さっぽろ文庫 19』　札幌市教育委員会文化資料室／編　札幌市／発行　1981年
『開拓使時代　さっぽろ文庫 50』　札幌市教育委員会文化資料室／編　札幌市／発行　1989年
『お雇い外国人　13　開拓』　原田 一典／著　鹿島出版会／発行　1975年
『札幌生活文化史　明治編　さっぽろ文庫　別冊』札幌市教育委員会／編　札幌市／発行　1985年
『新札幌市史　第8巻2　年表・索引編』　札幌市／編集　札幌市／発行　2008年

■屯田兵に関わるできごと
『屯田兵　さっぽろ文庫 33』　札幌市教育委員会文化資料室／編　札幌市／発行　1985年

■北海道外のできごと
『新札幌市史　第8巻2　年表・索引編』　札幌市／編集　札幌市／発行　2008年